

今年3月に公表された令和5年の市町村別農業産出額で、旭市は全国第5位(県内第1位)となりました。
全国有数の農業のまちを支える皆さんを紹介します。

令和5年 市町村別農業産出額(推計)

順位	市町村名(県名)	産出額(億円)
1	都城市(宮崎県)	981.0
2	田原市(愛知県)	891.1
3	銚田市(茨城県)	677.1
4	別海町(北海道)	639.3
5	旭市	559.4
6	浜松市(静岡県)	545.6
7	弘前市(青森県)	532.8
8	新潟市(新潟県)	517.6
9	熊本市(熊本県)	505.7
10	那須塩原市(栃木県)	504.0

(出所:農林水産省)

全国トップクラスの農力を誇る 豊かな実りあふれる農業のまち

旭市の農業の強み

九十九里浜に面した温暖な気候と、関東平野の肥沃な土地に恵まれ、古くから農業の盛んな地域として発展してきました。

旭市の農業は、耕種と畜産がバランス良く構成されています。耕種はキュウリやトマトなどの施設野菜、キャベツやダイコンなどの露地野菜、稲作、花き、果樹などがあり、畜産は養豚などが盛んです。首都圏へのアクセスに優れ、重要な食料供給地となっていることも、農業を経営する上で強みとなっています。

「食の郷」を支える人たち

安全で質の良い食べ物や、生活を彩る花など、豊かな農産物を届けるために、情熱と誇りを持って日々努力する農家がたくさんいます。

個人やグループで、品質や生産性の向上を目指すとともに、技術の継承などによる、担い手育成にも取り組んでいます。



私たちが生産しています



全国第2位

豚

旭市養豚推進協議会 会長
有限会社菅井物産
菅井伸さん

安全・安心で、高品質な豚肉を届けるために、飼料に良質な穀物を使用し、整った飼育環境で元気な豚を育てています。豚肉を学校給食用に提供するなど、食育にも取り組んでいます。



全国第6位

キュウリ

飯塚農園
飯塚良一さん

旭市は県内でも屈指の一大産地で、一年を通して、みずみずしく新鮮なキュウリを出荷しています。消費者のニーズに応えられる品質と量を、常に提供できるのが強みです。



全国第10位

メロン

J A ちばみどり
飯岡メロン部会 会長
向後稔さん

飯岡地域は風があり、夏は涼しく、冬は霜が降りにくく暖かいので、メロンの栽培に適しています。完熟してから収穫するので、品質にバラつきがなく糖度の高いメロンを提供できます。



就農や事業の拡大を応援



農業の経営安定や生産力の増強を目的に、各種補助事業を活用することが出来ます。

「輝け！ちばの園芸」

次世代産地整備支援事業

パイプハウスなどの施設整備、省力化機械や環境モニタリング装置の導入などに要する費用の一部を補助します。

対象／認定農業者、3戸以上の農業者で組織する団体など

補助率／●認定農業者…4分の1以内または3分の1以内

●団体…3分の1以内

※令和8年度に計画している人は、6月30日(月)までに相談してください。

新規就農者育成総合対策事業

令和4年4月以降に独立・自営就農し、就農時に原則45歳未満の認定新規就農者に、機械の購入費などの一部を補助します。

①経営発展支援事業

補助率／融資を活用して購入した機械や施設などの費用の4分の3以内で750万円まで
※②の受給者は375万円まで。

②経営開始資金

補助額／年間150万円(最長3年間)

新規就農者支援事業

農業経営に必要な機械や施設の取得費用、農地の賃借費用の一部を補助します。

対象／市内で農業を経営する原則45歳未満の認定新規就農者で、親族が市内で農業経営を行っていない人

補助率／●機械や施設…2分の1以内で50万円まで ●農地賃借…10a当たり2万円以内で20万円まで

親元就農チャレンジ支援金

親元で就農する人を支援します。

対象／次の全てに該当する人

●市内で農業を経営する人の子または孫で、就農したときの年齢が18歳以上50歳未満

●平成31年1月以降に就農し、親などの税務申告書類で親元

での就農が確認できる

補助額／年間20万円(最長5年間)

転入者農業チャレンジ支援金

旭市に転入して農業を始めようとする50歳未満の人に、雇用就農期間中の家賃を補助します。

補助額／1か月当たり5万円まで(最長3年間)

農業経営多角化支援事業

加工、流通、販売などでの新たな取り組みや、販売拡大を行う場合に必要となる機械や施設などの整備費を補助します。

対象／認定農業者、3戸以上の農業者で組織する団体など

補助率／2分の1以内で450万円まで

こだわり旭ブランド

創出支援事業

商品開発やPR活動など、新たな旭ブランドの創出に向けた取り組みを支援します。

対象／3戸以上の農水産業者で組織する団体、農水産業を営む法人など

補助率／2分の1以内で50万円まで

申し込み・問い合わせ先

農水産課振興班

☎ 74・3671

仲間たちと「旭市の農業」を誇りに思える未来に

生産者の高齢化が進む中、若い世代の農業への参入は、持続可能な農業を築くために不可欠です。今回は、市内で活躍する若手農業者の一人で、切り花のユリなどを栽培している神崎さんに話を聞きました。



株式会社神崎園芸
神崎凌さん

一どんな仕事をしていますか

主に2種類の系統のユリを栽培し、関東近郊の市場や道の駅「季楽里あさひ」などに出荷しています。家庭でユリを気軽に楽しんでもらえるよう、栽培方法や球根の買い付け方法を模索しながら、生産コストの工夫に努めています。

一支援事業は活用しましたか

実家を継いで農業を始めたため、親元就農チャレンジ支援金を活用したほか、ビニールハウスを増設する際に「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業を活用しました。今後も、支援事業を活用して生産量をアップさせ、一緒に楽しく働く仲間も増やしていきたいです。

一これからの農業への思いを

「農家は休みがない」というイメージがあるかもしれませんが、誰が育てても同じ品質の物ができるように作業をマニュアル化したことで、土日休みが取れています。安定した仕事で休みが取れるイメージが定着すると、若者も関心を持ってくれるのではないかと思います。

旭市には、やる気に満ちた同年代の農家さんが多いと感じます。胸を張って旭市の農業を誇れるように、熱い志を持った仲間たちと共に、切磋琢磨していきたいです。

